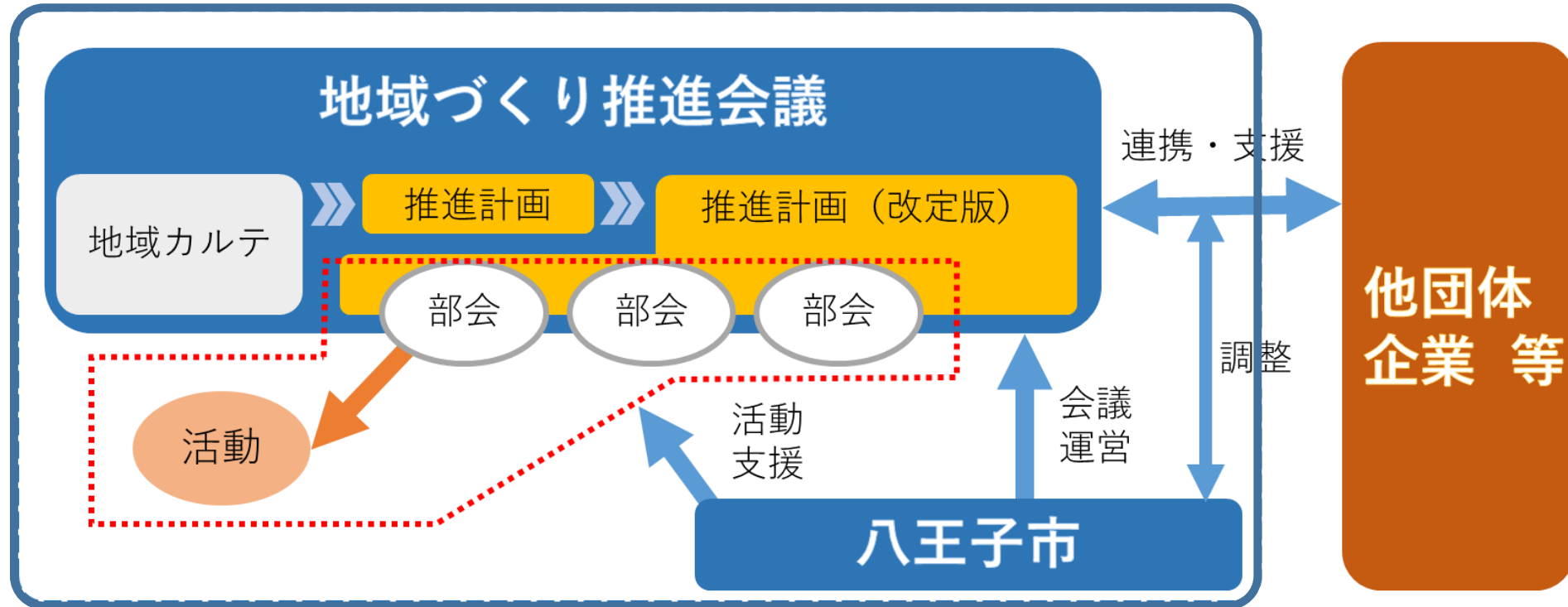


推進会議の役割・機能、 今後の推進会議の活動について

1 推進会議の役割・機能

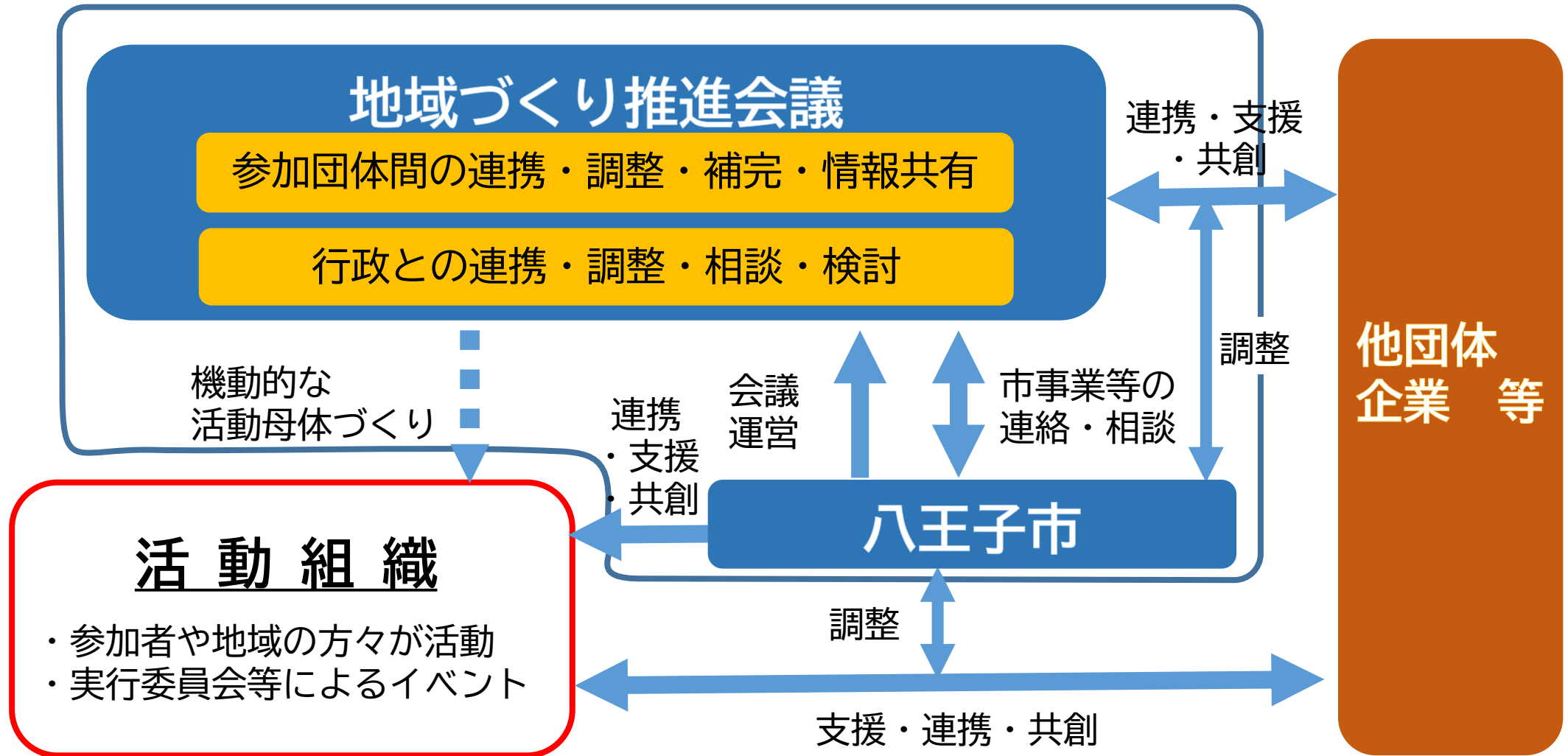
これまでの推進会議の姿と見えてきた課題



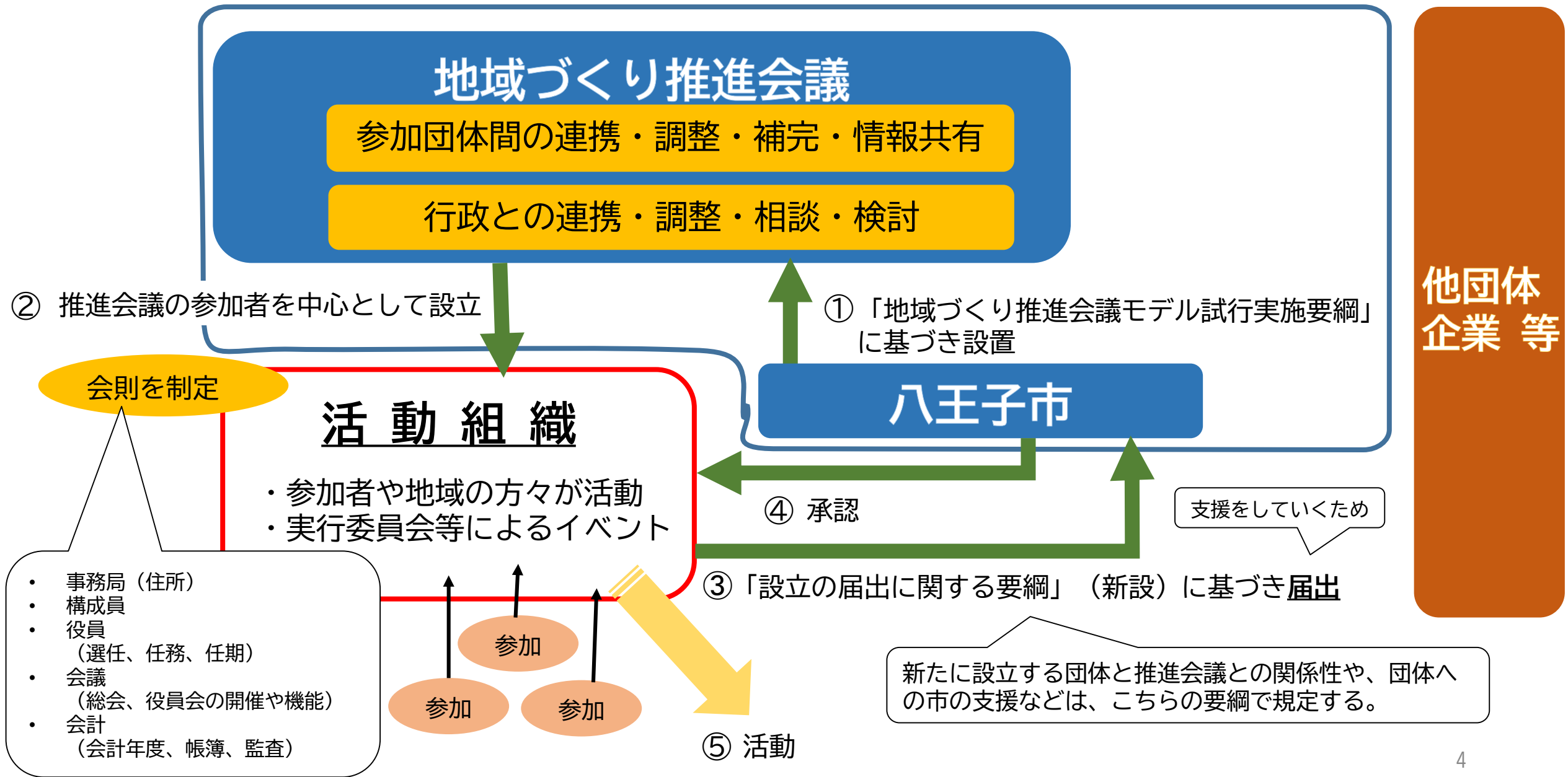
見えてきた課題

- ・ 活動収支の管理（預金口座・管理ルール）
- ・ 推進会議全体と部会活動の関わり
- ・ 行政課題の共有が不十分
- ・ 推進会議 「全体会参加者」 ≠ 「部会参加者」
- ・ 補助金等を活用した活動支援の課題
- ・ 「地域カルテ」のさらなる活用
- ・ 「推進計画」の理解・共有、APの作り方
- ・ 「部会」のあり方

課題に応じた組織の考え方（課題整理・対応の方向性）

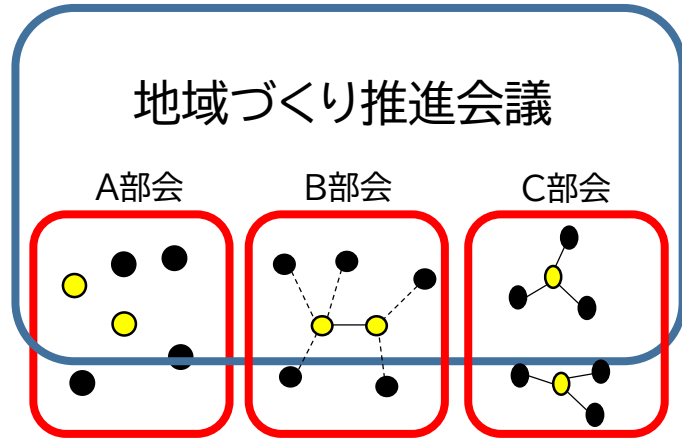


課題に応じた組織の考え方（要綱・会則等の関係）



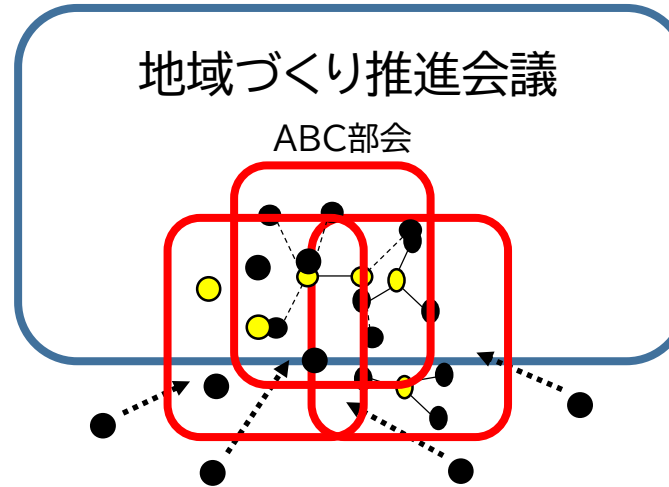
活動するための組織について

現 状



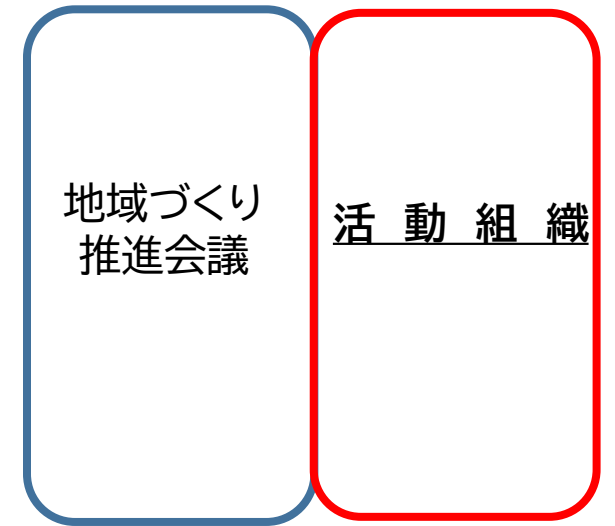
推進計画では・・・
3つの部会（公共施設部会を除く）があり、それぞれの部会の役員を中心に活動を行っている。

実際の活動
（6/10みんなの食堂開催時）



実際の活動（6/10みんなの食堂）
支え合い部会を中心に企画したが、実施に際しては部会の枠を超えて（推進会議参加者以外の方にも協力してもらって）実施。

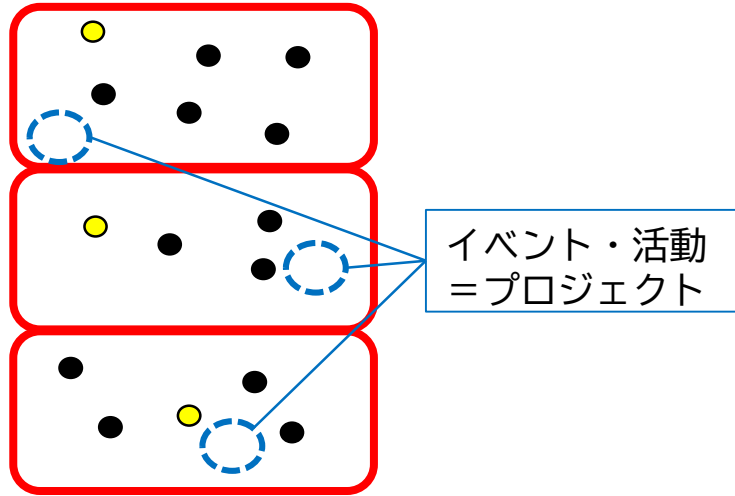
今 後



今後の活動組織
推進会議と活動組織を分けて、活動しやすい組織（機動的な活動、負担感の少ない組織）にする。
→これから皆さんと検討します

活動組織の例(パターン)

パターンA



現在の部会を中心に活動組織を作り、プロジェクトを進める

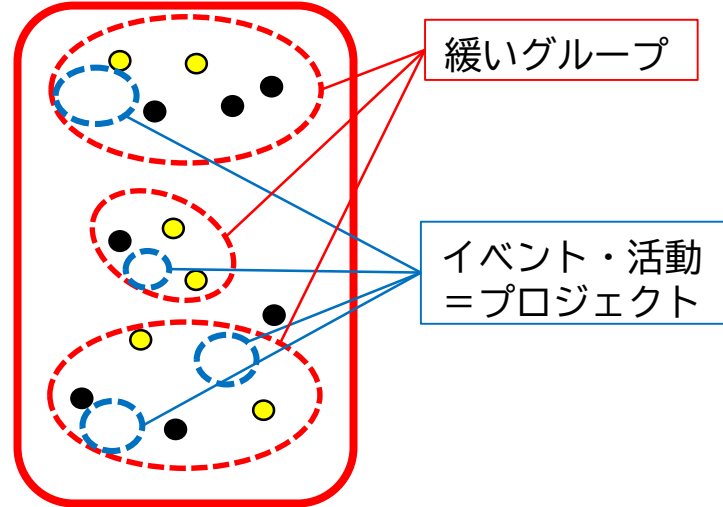
メリット

- 役割がはっきりとが分かれている。

デメリット

- 組織のルール(会則)が3つ必要。
- 組織ごとに代表が必要。
- 柔軟な活動がしにくいかも。

パターンB



一つの組織内でグループ(役割分け)を作り、プロジェクトを進める

※現状の組織に近い

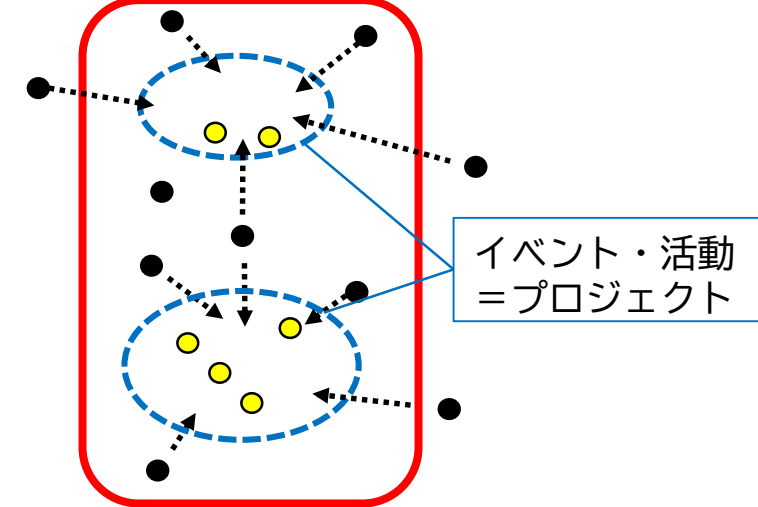
メリット

- 緩やかながら役割が分かれている。
- 組織のルール(会則)は1つでいい。

デメリット

- 一部の人に負担が寄りがちになる可能性。
- イベントを行う際の仕切りが大変そう。

パターンC



プロジェクトごとに中心となる人(コアメンバー≡担当者)を決め、組織内外から参加者・協力者を集いプロジェクトを進める

メリット

- 機動的な活動がしやすい。
- 活動に参加するときの負担感が少ない?
- 組織のルール(会則)は1つでいい。

デメリット

- やる気次第で活動が減っていく可能性?

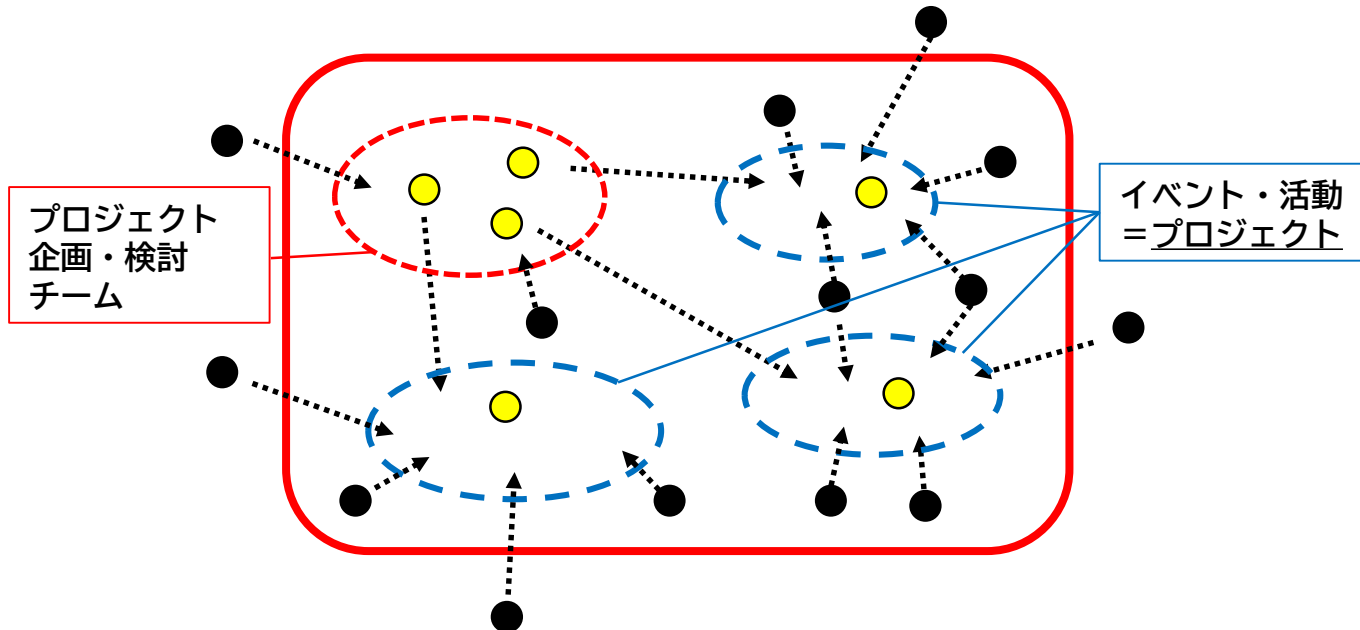
役員会で検討した内容

どんな活動組織だったら活動していきやすいか。

これまでの活動を踏まえて考えた視点

- 1 推進計画に位置付けた活動を進めていく。
- 2 どんな形にしたら機動的に動けるか。（市の支援/関わる人の報連相/立場の明確化）
- 3 一部の人に負担が寄ることにならないか。

現状のイメージ図（案）



- ◆ プロジェクト企画・検討チーム(仮) 【常設】
プロジェクトごとのコアメンバーと企画の内容検討や調整を行い、企画を推進する。
- ◆ イベント・活動ごとのコアメンバー 【随時】
企画推進チームと相談しながら、適宜他のメンバーに連絡し、プロジェクトを推進する。
- ◆ 活動組織のメンバー 【随時】
イベント・活動に積極的に参加し、特にコアメンバーからの要請を受けプロジェクトを運営する。



- 一部のに係る負担を軽減できる。
- 組織全体でプロジェクトの責任を負い参加のハードルが下がる。
- 機能すれば機動的な活動が出来るかも。